

日ASEAN次世代航空保安システムプロジェクトについて

日ASEAN次世代航空保安システムプロジェクト

次世代航空保安システム(新CNS/ATM)は、国際民間航空機関(ICAO)が2010年を導入目標として提唱したものであり、衛星等の技術を利用することにより、通信・航法・監視/航空交通管理の能力を高め、増加しつづける航空交通量に対応可能とするものである。航空機は国境を越えて飛行するため、次世代航空保安システムの導入により航空機処理容量を増加させ、安全性をさらに高めるためには、各国が調和の取れたシステムの導入を行うことが求められる。本プロジェクトは、ASEAN地域諸国が、システムの構築を推進するための指針を策定し、合わせて、導入に必要な教育・訓練を実施するものである。

2003年度:日ASEAN次世代航空保安システムセミナーを開催し、各国の現況把握及び次世代航空保安システムの導入効果に対する認識の共有を行う。

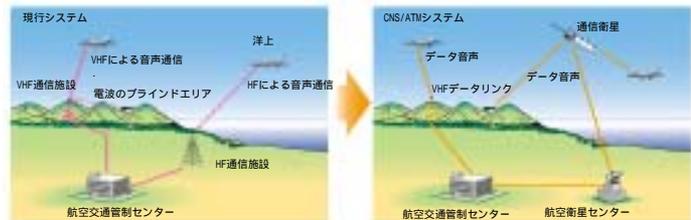
2004年度:ASEAN地域全体における次世代航空保安システムの導入計画を策定する。

2005年度:各国の現況を考慮に入れた個別の導入計画を策定し、次世代航空保安システムに対応した基礎的な教育・訓練を実施(フィリピン航空保安大学校の活用を検討)する。

次世代航空保安システムとは

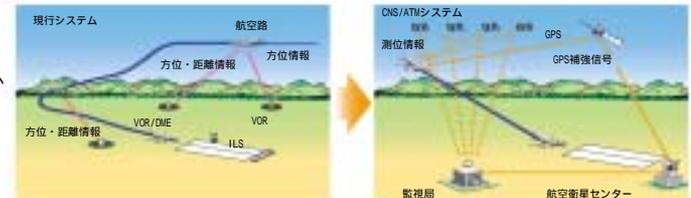
通信システム

現行VHF通信は、覆域上の制限があるため、洋上、遠隔地においては、音声品質が不安定なHF通信が利用されているが、次世代システムでは衛星通信を利用し、高品質な音声及びデータ-通信機能を提供する。



航法システム

航空路や着陸時に利用するVOR/DMEやILSに対し、次世代システムでは、GPS等の測位衛星と、その精度及び信頼性を補強するシステムを用いることにより、グローバルな航法サービスを提供する。



監視システム

現行レーダーは、覆域上の制限から洋上では利用できず、HF通信を利用した位置通報により航空機位置を把握しているが、次世代システムでは、衛星データリンクを利用し、航空機の位置を洋上管制を行う管制官のディスプレイに表示する。



運輸多目的衛星(MTSAT)

我が国が2004年に打ち上げを予定している運輸多目的衛星(MTSAT)は、通信・航法・監視の機能を提供し、広くアジア太平洋地域をカバーするため、ASEAN地域への次世代航空保安システムの導入に貢献することが可能である。